



「農の暮らし」(44)

～自分の本当にやりたいこと～ 谷岡正美さん



兵庫県神戸市 谷岡 正美さん

大手商社関連会社の管理職から一転、農家に転身した谷岡さん。農業を始めて15年、今ではお米と約100種類もの野菜を、『地球村』から学んだ心穏やかな生活の中で栽培しています。そんな谷岡さんの農家暮らしを取材してきました。

～始まりは偶然に～

私は元々「農業をやるぞ!」と決めていた訳ではないんです。サラリーマン時代はそれなりに高給取りだったんですが、その生きかたにどうしても納得ができませんでした。それで会社に辞表を提出した当時、新聞で偶然ある記事を見つけたんです。当時から既に有機農業をしていた農家さんが、農業研修生を募集していました。それが母の実家の近所だったので、参加してみたんです。そしたら近場に使われていない農地があって、もったいないと思っていたら、何と母の実家の土地だと言われ、なら自分が使わせてもらおうと、その土地で農業を始めました。もしかしたら、無意識下ではやりたいと思っていたのかもしれませんが、農業を始めたのは本当に偶然だったんです。

～必要なものを必要なだけ～

最初は作物を農協に出荷していて、今の3・4倍の量を作っていました。でも農協経由で出すと、価格を農協が決めるんですが全部売れるわけではなくて、売れなかったら捨てられるんです。捨てられた野菜に申し訳ないと思って、それはやめようと自分で販売を始めました。元々大量に作っていたので余っていましたが、漸くお客さんプラス自分と親戚分、全てが誰かの所に届くようにしていったら、どんどん少なくなって、今の量に落ち着きました。

昔は数種類の野菜を大量に作っていたのですが、野菜を届けているとお客さんからの「アレはないの?」「こんな野菜を作って」というリクエストに答えていったら、どんどん種類が増えていきました。今では100種類近くになります。10年以上配達に行っていますが、昔はだいたい4人家族だったのが、お子さんの独立などで最近では2、3人だけとだんだん小さい家族が増えてきて、少量多品種の野菜が求められるようになってきました。



もうすぐ収穫のお米

～大事なのは感謝の心～

私は、怒りや悲しみ、ネガティブな気持ちの時には畑に入らないようにしています。畑が嫌がると思いますし、土にも野菜にも失礼だと思うんです。私はみんな大事にしてやりたいんです。畑の土も石も、虫も雑草も。雑草を抜く時は、「肥料になってね」と雑草に感謝しながら抜いています。だから私は、雑草は燃やさずに肥料として使っています。その後でまた生えてきますけど、その時はまた抜いてやればいいんです。命は循環してますから、無駄にしないことを心がけています。

縄文時代は、戦いの跡が一切ないんです。人だけでなく、全てを含めてみんなと仲良くする。それが日本人の本来の姿ではないかと思います。そう考えた時、それでいいんだと、すごく落ち着いたんです。今は競争ばかりしていて、勝った人が正しい、多く持つ者が偉いと考えられています。私はそうは思いません。

どうやってみんなと争わずに仲良くできるか。それがこだわりというか、心が落ち着くのでそれでやっていこうと思っています。だから私は虫も取りません。別に畑が全滅する訳ではないですし。

～虫食いの野菜は病んでる～

虫が食うというのは、人間が食ってはいけないものを虫が教えてくれてるんです。虫がついてる野菜は良いと言いますが、逆です。確かに虫も食わない野菜は危険ですが、ちゃんとした物は虫が食わずに残してくれるんです。さっきの水菜

は虫が食ってましたけど、この時期の水菜は食べない方が良くと虫が教えてるんです。もう少ししたら涼しくなって、水菜がきだすんです。農薬を使って野菜を作っている農家の人と話をすることもありますが、例えば大根なんかは江戸時代から存在していたじゃないですか。江戸時代からできていたものが今は農薬を使わないとできないなんてことは無いんです。旬の野菜というのは、本当にきれいにできるんですよ。旬にできたものだけ食べてればいいんですよ。夏にキャベツ、冬にトマト、こんなのは自然に反してるんです。もっと自然のサイクルに、人間が馴染めばいいんです。



～今を大事に～

作っている野菜は、『地球村』を中心に口コミで売っていますが、畑を広げたいとかは思っていないですね。今のままで生活に困ってもいませんから。誰も困らない、自分も困らない。ならば、それ以上何かを求める必要はありません。今を大事にして、今やっている精一杯のことを、これからも続けていければと思っています。

谷岡さんの『地球村』との15年前の出会いは、『地球村通信』2011年3月号に掲載されています。